

(様式3)

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成26年5月1日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0871200218		
法人名	医療法人 永慈会		
事業所名	ひたちの森スマイルハウス太田	ユニット名	さくら
所在地	〒313-0042 茨城県常陸太田市磯部町90-1		
自己評価作成日	平成25年9月28日	評価結果 市町村受理日	平成26年4月30日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=0871200218-00&PrefCd=08&VersionCd=022
-----------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成25年11月8日	評価機関 決裁日	平成26年4月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>ホームで力を入れていた近隣住民との交流並びに幼稚園、小学校との交流も定着してきており、地域の方と一緒に社会生活を営む事が出来るホームになってきております。</p> <p>その他に近隣に同系列の病院、施設などが有る事により、利用者様の心身の状態に合ったケアが可能になっている事と、御家族様の要望にも迅速に対応する事が出来る様になっております。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>医療機関を母体とした法人代表者が、福祉で地域に貢献したいという思いで設立した事業所である。</p> <p>施設長は地域密着型サービスの意義をよく理解して、豊富な経験とリーダーシップで事業所運営にあたっており、職員はその思いを理解しながら“<i>We work with all our heart</i>”が入ったユニフォームの言葉どおりに、「職員自ら楽しむ」ことを心がけ、「今日はドライブに出かけようか」や「今日の昼食は庭で食べようか」など、日常の枠にとらわれない支援を心がけており、利用者はその支援のもとで音楽を楽しむなど、日々穏やかに過ごしている。</p>
--

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念を作成し、業務前に理念を読み上げ全職員が理念を理解し共有できるよう日々、努めています。	全職員で話し合い、「ひたちの森スマイルハウス太田はチーム一丸となり地域、利用者様に貢献していけるように努力します」など、事業所独自の理念を作成しているが、地域密着型サービス事業所という観点での理念を掲げるまでには至っていない。 職員は朝礼時や退勤時に理念を唱和するほか、名札の裏に理念を差し込み、常に確認している。 施設長は職員に対して、利用者への接遇が理念に合っているかを現場で問いかけている。	介護保険法の運営基準に明示されている「家庭的な環境と地域住民との交流の下で」とのグループホームの基本方針に基づいた、地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を、全職員で話し合っって作成することが望まれる。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ボランティア・体験学習・インターシップなどの受け入れを通じて広く地域に開放しています。また、地域の常会に加入し夏祭り・小学校の運動会・お餅つき等のイベントに参加したり、事業所でイベントを企画し地域の方に参加を促しながら交流を図っています。	職員は地域住民との交流を大切にしており、自治会に加入して利用者や職員が地域の祭りや運動会、餅つきなどに参加し、地域住民と交流している。 地域住民から切花や果物、野菜などのお裾分けがあるほか、清掃、そば打ち、リハビリ体操など、地域のボランティアが事業所を来訪している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生の総合学習の受け入れ・高校生の職場実習等を積極的に受け入れています。また、見学や相談に来た方へは、出来る限りお役に立てられるように心掛けながら随時、介護専門員及びホーム責任者が対応しています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の際の意見や要望は記録に残し改善やホームの向上に活かすようにしています。また、会議に参加されている方からの意見も参考にしながらサービスの向上に努めています。	市職員のほか家族等の代表や民生委員、他法人の事業所職員が出席する運営推進会議を2ヶ月に1回開催しており、入居状況や行事、勉強会の結果などを報告するとともに、会議後出席者に事業所の行事に参加してもらい、事業所の取り組みを見てもらえるよう工夫をしている。 施設長は会議出席者からノロウイルス感染情報や予防に関する情報を得て、事業所の衛生面での向上に活かしているほか、事業所の祭りで地域住民による野菜販売や餅つきの提案を受け、祭りに参加してもらっている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	ホームの介護支援専門委員が市町村の担当者と随時、連絡や行き来をし情報やアドバイスを頂きながらサービスの向上に取り組むように努めています。	施設長や介護支援専門員は市担当者に事業所便りなどを届けたり、市担当者が参加するグループホーム連絡協議会で同席したりする機会を捉えて事業所のケアの取組みを報告しているほか、各種申請書類や家族等の要望への対応について、随時市担当者を訪問して相談している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束、その他の行動制限廃止マニュアル等を作成し、何時でも個々のスタッフが再確認できるようファイリングし現場スタッフが目の届き易い場所に保管しています。	身体拘束廃止マニュアルを作成するとともに、その内容に基づいて年1回内部研修を実施している。 施設長や管理者は、現場において「ここに座っていて」などの言葉による身体拘束を見かけた場合は、その都度職員に注意をしている。 職員は家族等に対して利用開始時に身体拘束をしないケアのリスクとその低減を説明するとともに、きめ細かな見守りにより、玄関の施錠も含めて身体拘束をしないケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	膳職員が研修、講義、勉強会に参加し虐待について学んでいます。また、現場でも定期的に勉強会を開き虐待が起こらないよう全職員が一丸となり虐待防止に常時努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者・職員は研修等に参加し日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、円滑に対応できるよう努めています。また、ホーム内でも勉強会を開くようにし全スタッフに制度の理解をして貰えるよう努めています。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約時には利用者、御家族の方に分かり易く説明し理解・納得を頂けるように努めています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に御意見箱を設置し利用者、御家族の方が何時でも意見や要望を施設側に伝えることができるようになっています。また、施設には苦情受け付けの担当者も設けており、苦情・意見の対応の他、運営に反映させるよう努めています。	施設長や管理者は、事業所便りで家族等に意見や要望を出してもらえるよう呼びかけるとともに、家族等から意見や要望が出た場合には、組織をあげて直ちに対応することにより、家族等との信頼関係を築くよう努めている。 職員は家族等から出た「本人に役割意識を持たせてほしい」という意見を受け、利用者の特性を見極めながら一人ひとりに役割を担っていただくよう努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度リーダー会議を開く他、ユニット毎に週に1回ユニット会議を実施し、その都度スタッフから出た意見を記録に残し運営に反映させるよう努めています。	施設長や管理者は週1回のユニット会議のほか、年に数回食事会を実施し、職員の意見を聞くよう努めている。 施設長は、職員からの勤務体制の変更や研修への参加、備品購入に関する意見や提案を受け、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が安心して働けるよう本部と話し合いや相談を行いながら環境整備に努めています。また、運営者は実績・勤務状況を把握した上で、個々に応じたアドバイスをを行っています。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修計画の作成をした後、研修に参加しています。また、研修終了後は報告書を作成し、研修内容を全職員に伝達するようにしています。その他に研修した事を現場で活かせるよう勉強会を開き現場で実践していくよう努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	同系列の施設交流の他、地域のGH連絡協議会へも参加し同業者同士の情報交換を随時行いながら互いにサービスの質を向上させていけるよう努めています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ホーム利用前に家族、本人に要望及び希望を聞きホームでの生活を支援する上で参考にしています。また、入所した時点で本人の話の聞き内容に応じて家族の方の協力を得ながら対応するようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談の時点で家族の要望、希望及び困っていること等を聞き、その都度対応しています。また、入所後も家族の相談を随時受け付けており改善に向け適切な対応をするよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人は元より家族からの要望があれば、随時に対応するようにしています。また、利用者の状態や家族の希望を聞き、それらを基に介護方法を定めるようにしています。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	全職員が利用者と共に食事をしたり、お茶を飲んだり、家事仕事を一緒にしながら家族のような関係を築いていけるようにしています。また、利用者と職員の間には壁を作らないよう日々、配慮するように努めています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が面会に来た時は、お茶を出し家庭的な雰囲気の中で話ができるように配慮しています。職員も介護をする上で困ったことが有れば家族の方に遠慮なく話し、家族の方と一緒に利用者を支援していくようにしています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の友人や知人が何時でも逢う事が出来るようになっていきます。本人や家族の方からの要望が有れば以前住んでいた場所へドライブに出掛けたり、その周辺を散策したりして頂いています。	職員は利用者の友人や知人が事業所を来訪した際には食事を提供したり、再来訪を働きかけたりしているほか、利用者が以前住んでいた場所にドライブをしている。 アセスメントや日々の生活の中で、「パチンコが好き」や「ピアノが好き」などの情報を把握しているが、利用者がこれまで培ってきた人間関係や場所との継続を支援するという観点に立って馴染みの人や場所を把握するまでには至っていない。	利用者がその人らしく生きるためには、これまで培ってきた人間関係や社会との関係を把握することが重要であることを再認識し、好きなことを把握した結果を人や場所に結び付け、全職員で共有して関係継続の支援に努めることが望まれる。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互いが楽しく生活できるように、個々の利用者の性格、相性を考慮しつつ、利用者同士が楽しく生活出来るように援助しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了しても手紙や電話などで利用者の状況を確認するよう心掛けています。また、家族から何らかの相談があった場合は、出来る限りのアドバイス等をするように心掛けています。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者と触れ合う時は、一人一人の人格を尊重し対応するように努めています。本人がホームでの生活の中で何を思い、何を望んでいるのか全職員が観察、記録し本人の意向に沿った生活環境を作り上げるよう絶えず努力しています。	職員は、日々の生活の中で利用者のつづやきや表情、態度などから思いや意向を推測し、申し送りノートに記録するように努めているが、日常の記録に埋もれがちであり、明確な記録として残すまでには至っていない。 思いや意向の把握が困難な利用者については、利用者の言葉や態度から思いや意向を把握するように努め、その結果を全職員で検討している。	利用者や家族等の思いや意向の把握がケアの出発点であることを再認識し、把握した思いや意向をサインペンで強調するなどの工夫をして全職員で共有し、介護計画に反映させていくことが望まれる。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個々の生活歴を念頭に入れ支援を行なっています。利用前には家族、本人から在宅時の生活状況を伺いサービスに活かすようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活で本人が出来ることは、出来る限り口出しせず本人に委ねるようにしています。また、日々の生活の中で絶えず心身の状態を観察し、状態に応じて対応するようにしています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画書を家族や本人に見て頂き、一緒に情報を共有できるように配慮しています。また、その都度、家族、本人からの意見や要望があれば、それに沿った計画書をチームで取り組み作成するようにしています。	利用者や家族等の希望を踏まえて介護支援専門員が作成した介護計画を基に、利用者や家族等、職員が参加する会議で検討し、医療関係者の意見も参考にしながら利用者の課題を踏まえた介護計画を作成している。 毎月のモニタリング結果や目標期間に応じた評価結果に基づいて介護計画を見直すとともに、利用者の状態に変化が生じた場合には、目標期間にかかわらず随時介護計画を見直している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の日誌に、その時々の状態や状況を記録し全職員で情報の共有を図りながら支援しています。また、状態に変化が見られた時は、その都度チームで見直しを行い統一した支援を行なっていくようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院が母体なので、家族及び本人からの要望があれば医療機関に協力を依頼し、専門職のアドバイス等を参考にしながら支援を行なうようにしています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	積極的に地域の行事に参加したりホームのイベント参加を地域の方へ呼び掛け一緒に行動して貰えるよう努めています。その他に近隣の公園へ好きな時に出掛けたり、お店で買い物をして貰ったりと本人の妨げにならないよう配慮しながら支援しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当法人の居宅療養管理指導や、定期的な受診・検査を実施してします。また、本人及び家族からの要望があれば好きな医療機関に受診して貰うよう臨機応変に対応しています。	利用者や家族等の希望にそって入居前からのかかりつけ医への受診も支援しており、法人の医療ソーシャルワーカーの協力も得つつ、かかりつけの医療機関とも連絡を図りながら受診を支援している。 家族等が付き添う場合には、バイタルサインなどを記録した「介護要約」のコピーを手渡すとともに、家族等から聞いた受診結果を申し送りノートに記録し、全職員で共有している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当ホームには担当の看護職員が居り随時、利用者の心身の状態を報告し健康管理に努めています。また、現場スタッフもバイタルチェックを午前と午後実施する他、表情観察等を随時行い変化があれば医療機関に直接、報告するなどして柔軟な対応をするよう心掛けています。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	認知症療養病棟を持っている病院が母体のホームなので、常に利用者にとって最善の方法を医療機関と相談しながら対応しています。また、利用者が入院中は少しでも安心して頂けるようホームの職員が出来る限り顔を出すようにしたり、ケースワーカーを通じて入院時の状況（状態）を確認しています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期が訪れた場合は主治医・家族・職員で話し合いをし家族の意向を理解した上で主治医と相談しながら対応しています。また、本人の意向もホーム利用開始直後にそれと無く伺っておき重度化や終末期が訪れた場合、本人の意向を最優先に支援していけるよう取り組んでいます。	「重度化した場合における対応に係る方針」を作成し、契約時に利用者や家族等に説明して同意を得ているが、看取り介護にあたって事業所としてできることとできないことを明記した文書を作成するまでには至っていない。 職員は看取り介護に備えて、法人の病院での看取り介護研修に参加している。	事業所としてできることとできないことを明記した看取り介護の方針を作成し、看取り介護開始時に利用者や家族等から文書で同意を得ることが望まれる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDを備えています。緊急時の対応マニュアルを整えてマニュアルに沿って対応出来るようにしています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2度、消防署の協力を得て避難訓練を実施しています。その他にホーム独自に月に一度、夜間時の緊急連絡を実施したり、避難訓練を実施しながら災害時に備えられるよう努めています。	年2回夜間想定を含む避難訓練や消防設備点検を実施するとともに、避難完了時間等が入った訓練記録を作成しているが、避難限界時間内での避難完了に向けた課題を把握するまでには至っていない。 運営推進会議に新たに参加することになった地元消防団と一緒に、近隣住民に避難訓練への参加を呼びかけることにしている。 災害に備えて食糧や飲料水、備品などを蓄えている。	避難限界時間を把握するとともに、その時間内の避難完了にむけた課題を抽出することが望まれる。 近隣住民の避難訓練への参加を実現するとともに、避難限界時間内の避難完了に向けて、早期に地域との協力体制が構築されることが望まれる。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者への声掛けの際には、名前に語尾に「・・・ちゃん」付けをしないよう日頃から注意しながら声掛けを行っています。また、利用者と話をする時も表情を観察しながら話は出来る限り避けるよう日頃から留意し対応しています。	職員は利用者の氏名を「ちゃん付け」で呼ばないように日頃から留意をするとともに、利用者の表情を観察しながら触れてほしくない話題を避けるように努めている。 入浴介助は1対1で対応するほか、排泄誘導の際にはトイレのドアを確実に閉めるなど、プライバシーに配慮している。 個人情報に関する書類は、事務室の鍵のかかるロッカーに保管している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に自己決定を基本として対応しています。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日の対面で話をし、本人が何をしたいのか、今日一日どう過ごしたいのか等を聞き、職員は本人が1日を自分のペースで希望通りに過ごす事が出来るように配慮しながら支援するように努めています。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日の気分に合わせて、お洒落を楽しんで頂けるよう配慮しています。職員がアドバイス程度に留めるようにし、最終的には本人に委ねるよう心掛けています。			

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	家庭的な雰囲気の中で、職員と利用者が一緒に食事を作ったり、同じテーブルで会話を挟みながら楽しく食事出来るよう配慮したりしています。片付けなども無理強いしないよう注意しながら声掛けを行っています。	食材配達業者の献立を基本としながらも、職員は自家菜園での収穫物や地域住民からのお裾分けなども食材に取り入れ、利用者と一緒に献立を自由にアレンジしている。 利用者は一人ひとりが役割意識をもち、職員の支援を得ながらテーブル拭きや食器拭きなど、能力に応じた役割を担っている。 利用者はおやつ作りのほか、希望にそった行事食やみんなで話し合って弁当持参の花見をしたり、庭での食事や鍋パーティー、年数回の外食など、多彩な食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人の記録用紙に食事量、水分量など毎日記録し、場合により管理栄養士の指導を受けるようにしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の見守りや介助を通じて歯磨き、嗽、入れ歯の手入れを徹底しています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握する為、プライバシーに留意しながら観察、記録を行い支援に活かせるように努めています。また、排泄パターンの把握や排泄の失敗の原因究明などをしながら支援方法を定めるようにすると共に、紙パンツ及びオムツの使用を出来る限り減らして行くよう努力しています。	職員は排泄チェック表により排泄パターンを把握するとともに、落ち着きがなくなるなどのサインを見逃さず、トイレでの排泄に向けた支援を行うとともに、身体機能低下など失禁の原因を探りながら、早めのトイレ誘導をするなど、安易に紙パンツやおむつに頼らない排泄支援に努めている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分のチェックや運動に気を付けて対応しています。状態により主治医と相談し整腸剤・下剤で対応するようにしています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	利用者の希望に合わせて直ぐに入浴して頂けるよう準備をしています。また、入浴の際にも出来る限り寛いで頂けるよう利用者の意思に任せるようにしています。	夜間の入浴も含めて利用者の希望にそった入浴を支援している。 林檎湯や柚子湯、菖蒲湯などのほか、入浴剤を使用するなど、入浴が楽しみなものになるよう工夫している。 入浴を拒む利用者には、職員を替えて入浴を勧めたり、足浴に変えたりするなど入浴支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の排泄パターンを把握する為、プライバシーに留意しながら観察、記録を行い支援に活かせるように努めています。また、排泄パターンの把握や排泄の失敗の原因究明などをしながら支援方法を定めるようにすると共に、紙パンツ及びオムツの使用を出来る限り減らして行くよう努力しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人での服薬管理が難しい場合、職員が管理し適切な用法、用量を厳守しながら内服支援に努めています。また、職員は個々の処方箋を確認したり、医師に尋ねる等して利用者の内服薬について理解するよう努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の個性・現在の能力を考え、その人の出来る事を支援しています。食器を洗う、洗濯物を畳む、新聞を読む、広告を見るなど。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩やドライブのほか地域で実施している祭り、イベントなど積極的に参加するようにしています。その他に年間行事の一環としても花見や地区外にドライブを家族同伴で出かける機会を多く設けるように努めています。また、本人及び家族の方の要望があれば何時でも外出や外泊が出来るよう臨機応変に対応しています。	職員は天気の良い日には事業所周辺の散歩や外気浴を兼ねた庭での食事のほか、花見や観光、果物狩りなど、ドライブを兼ねた外出を月2回程度実施している。利用者職員で話し合う中で、「ドライブをしようか」や「今日は外で食べようか」などの提案をすぐに実行に移して外出するなど、柔軟な外出支援に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	出来る限り職員が関与しないようにし、利用者の希望通りに買い物などして頂くようにしています。場合により職員が本人に代わり金銭管理を行いながら、本人の要望に沿うよう支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	公衆電話を各ユニットに配置しています。手紙も依頼された時には本人に代わり出したりと臨機応変に対応しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じられるように装飾に工夫を凝らしたり、四季折々の花を飾ったりしながら、家庭的な雰囲気を感じられるよう配慮しています。また、1F・2Fの中央フロアにも椅子、テーブルを設置し何時でも何処でも寛いで頂けるよう配慮しています。	利用者の絵画や習字を飾るとともに、水耕栽培植物や観葉植物を配置するなど、工夫にあふれた居間兼食堂は落ち着いて温かさが感じられる家庭的な雰囲気となっている。小上がりの和室がある居間兼食堂の一角に、ソファを置いた新聞コーナーやベンチを配置するほか、ユニットをつなぐ広々とした共用スペースには籐椅子やテーブルを置くなどして、各所で利用者がゆったりと過ごせるように配慮をしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	プライバシーに配慮しつつ自由に過ごせる居場所の確保に努めています。1F・2Fフロアと廊下のスペースにソファや椅子を配置し利用者同士のコミュニケーションが円滑に行えるよう配慮しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個人の趣味や今までの生活を重視し、安心して過ごして頂けるよう配慮しています。また、家族・本人の要望があれば在宅時に愛用していた物を持ち込んで貰い、自宅に居るような安心感を持って生活が出来るように支援しています。	利用者は使い慣れた電子ピアノや目覚まし時計、ラジオカセットレコーダーなどを持ち込んでいるほか、家族の写真や書道作品を飾ったり、好きな音楽雑誌を楽しんだりするなど、利用者一人ひとりの生活スタイルに合った居室づくりをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、エレベーター、浴室などに手摺が設備されており日常常用されています。また、各部屋に洗面台が有り、自分で洗面や歯磨き等が出来るようになっています。		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ毎日のように <input type="checkbox"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="checkbox"/> 3, たまに <input type="checkbox"/> 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="checkbox"/> 1, 大いに増えている <input type="checkbox"/> 2, 少しずつ増えている <input type="checkbox"/> 3, あまり増えていない <input type="checkbox"/> 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての職員が <input type="checkbox"/> 2, 職員の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 職員の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての家族等が <input type="checkbox"/> 2, 家族等の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 家族等の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない

(様式4)

目 標 達 成 計 画

事業所名 ひたちの森スマイルハウス太田

作成日 平成26年4月25日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	1	現在の理念は入居者に対しての接し方が中心であり地域との係りや家庭的な環境での支援が理念の中に組み込まれてなかった。	GHの基本方針で有る家庭的な環境の中での支援内容と地域住人との交流を取り入れた理念を掲げ支援していく。	各ユニット管理者が担当部署毎に全員の意見を聞き、取りまとめた後にリーダー会議で可決し全職員に通達する。	3ヵ月
2	20	入居前の情報の確認が不十分で、今までの生活歴を重視した支援が実施できてなかった。	今迄の生活の中で本人が好きで、遣りたいを把握し、その内容を共有しながら支援に活かしていく。	本人と家族から今迄の生活歴や思いを聞き内容を記録に残す。また、知人との係りが途絶えないよう家族の方と連携し情報を共有していく	6ヵ月
3	23	利用者から聞かれた要望や思いの記録が不十分で支援に活かされてない。	利用者から聞かれた要望を何時でも確認できるように記録し、職員間で情報を共有しながら支援に活かす。	個々の記録用紙の他に、個人の思いを記録できるノートを準備する。重要な内容は赤等で色分けして記録する。	6ヵ月
4	33	現在は、看取りに関する方針のみ契約時に同意を貰っているが施設として「出来る事、出来ない事」の説明は口頭での説明で同意書は作成されて無い。	看取りの方針だけでなく施設で「出来る事・出来ない事」を明記した文書を作成し入居前に同意を貰っておく。	法人責任者と検討し、同系列施設責任者を交えながら統一した文書を作成していく。	6ヶ月
5	35	避難訓練は実施しているが重要視しなければならぬ避難限界時間の把握や近隣住人参加の避難訓練が実施されて無い。	避難限界時間内での避難が出来るようにする。また近隣住人と年に数回は避難訓練を実施していく。	避難訓練の際には計測し訓練内容と時間を記録。その都度、問題点を検証し改善に努める。また最初は推進会議時に実施していき徐々に地域の方にも参加を求めていく。	1年

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。